



基本理念

- 1. 社員で考え、社員のための労働運動を目指す 企業内労働組合
- 2. 心とところをつなぐ相互扶助活動と、次代につなぐ社会正義の実現を目指す

JUSTICE

自らを変える!! 明日を創る!! イーストイノベーション

ジェイアール・イーストユニオン
 発行者 菅野 一位
 編集者 教 宣 部
 〒105-0021
 東京都港区東新橋 2-8-28
 TEL(JR) 057-7333
 TEL(NTT) 03-6452-9687
 ホームページ検索
 「JREユニオン」



私たちの運動の原点は企業内労働組合運動!

定期委員会開催にあたり菅野中央執行委員長は、冒頭、「台風15号、19号での大災害が東日本に襲いかかり、長野新幹線車両センターが水没、首都圏をはじめ東北各地の在来線でも土砂の流出入や水没があり、鉄道施設に甚大な被害を受けた。その被害状況は会社の経営環境にも重くのしかかっていると考えられる。現在、復旧にむけた作業が続いているが、組合員及び社員の皆さんには

業職種別部会「第3回定期委員会」開催! 提言・チェック機能強化に向けて

11月16日、本部の諮問機関である各業職種別部会は、「第3回定期委員会」を本部事務所で開催し、各部会役員・委員、中央執行委員らが出席した。各専門分野における提言・チェック機能の原点ともなる部会活動の今年度活動方針などを決定した。

「鉄道魂」で復旧完了にむけて、安全に取り組んでいたいただきたい。」と挨拶した。

また、年末手当交渉についても触れ、「今回の年末手当交渉では、昨年度同様の回答を会社から受けた。今回の交渉では申入れ直前に台風被害を鑑み、申入れ要求の変更を執行委員会で確認し、会社に対して戦略的な思いを入れた交渉とした。少数組合だからこそできることを戦略的に取り込み、集団的労使関係を意識して会社を支持する労組とし、将来を見据えた組織戦略をもちながら、今後もしっかり取り組みたい」と抱負を語った。

さらに「9月の早川町ポラテティア、10月の名取海岸林再生ボランティア、亘理町議会議員選挙での『小野一雄氏』当選、野蒜でのイースト・キャンペーンなど、こういった活動を通して、部会としても、組織としての振り返り、役員または組合員としての振り返りを行い、この間の様々な活

動の目的がどうであったかのすりあわせをしていたいただきたい。そして、そのことから次への行動での結果につなげられるように、ぜひ考えていただきたい。」と述べ、私たちの目的を真に達成す

年末手当妥結!

11月13日、申第4号「2019年度年末手当の支払いに関する申入れ」第三回目の団体交渉を行い、会社側から回答の提示があった。内容は、台風被害があり通期業績が見通せない中でも、昨年同月数の支給であることや、災害復旧に努める組合員のモチベーション向上につながることに評価すると同時に、下半期の収入確保への期待を込められたものと受け止め、席上で妥結した。また、妥結にあたり、業務改革、働き方改革、職場改革に向け、組合として理解し、魅力ある会社創り、職場創りに努力していくことを表明した。

本部はこの間の交渉で、好調な業績を踏まえ、「変革」の実現に向けて努力する組合員への還元は基より、同時に、安全対策や、今般頻発する自然災害が経営に与える影響と、そうしたリスクを含め、将来に抱える

るためには何を実践するべきかを、各々が自分事として真剣に考え、取り組むよう呼び掛けた。



その後、各部会ごと(設備、営業、運車)に分かれて定期委員会を開催し、活動報告・運動方針提案・質疑応答・意見交換などを活発な議論を行ったのち、各部会で協議した事項や次期体制等について報告がなされた。

多くの課題について、認識をともにすることの重要性を議論してきた。その中で、会社側からも多くの認識が一致しているとの見解も示され、新たなジョブローテーションの実施など、「変革2027」の施策実現に向けてのこととあわせて、魅力ある会社、職場作りを努めていくべく唱えた私たちのスタンスは、大きな意味で実を結ぶことができた。労使協議において、互いの成果を実現すること、そして会社の発展をめざしていくものである。

令和元年度の年末手当について

- 1 基準額
基準額は、基準内賃金の3.18ヶ月分とする。
- 2 支給日
令和元年12月4日(水)以降、準備でき次第とする。

各部署役員について

管理部会

部長 大泉浩康(仙台)
 副部長 菅谷尚司(仙台)
 事務局長 遠藤幸雄(関東)

営業部会

部長 柘窪吉則(仙台)
 副部長 和知利昭(関東)
 事務局長 渡辺敏昭(新潟)

運車部会

部長 日光 忠(新潟)
 副部長 佐藤定司(関東)
 事務局長 斎藤勝彦(仙台)

設備部会

部長 船山勝広(新潟)
 副部長 橋 伸幸(仙台)
 事務局長 五十嵐優一(仙台)

JR連合「第2回労働政策委員会」を開催
 20春闘を本格始動!

JR連合は11月14日、第2回労働政策委員会を開催し、JR各単組の委員が出席する中、2020春季生活闘争に関して、闘争方針の基本的スタンスなどを確認した。

JR連合の2020春季生活闘争は、連合構成組織として、連合方針に基づき取り組むことはもとより、新たに策定した「中期労働政策ビジョン(2019~2023)」に基づく初めての春闘となることから、加盟各単組が、同じビ

新幹線地本が機関整備

新幹線地方本部は11月16日、本年4月から新幹線業務の一元化により設置された新幹線統括本部に所属する組合員による地方本部の機関整備のため、結成大会を開催し、今後の活動方針などを決定した。



国井執行委員長の挨拶では、「当社の主力商品である新幹線を労働組合の役割の一つであるチェック機能を働かせ、安全・安定輸送の実現、会社へのタイムリーな提言が必要不可欠である。そして安全にかかわることは決して妥協せずに追求してい

ヨんで示した「JR関係労働者にとってあるべき働き方」や賃金をはじめとする労働条件の各種目標を共有し、一歩でも前進を図る取り組みにしなければならぬ」とした上で、JR産業の特性や現状を踏まえ、「人材の確保・定着」にむけて、定期昇給はもちろん、社員一人ひとりが生み出した付加価値や生産性向上分の適正な分配即ち、継続的な賃上げが不可欠であること、併せて、ワーク・ライフ・バランスの観点で、すべての労働条件を点検し改善を図る「総合生活改善闘争」を継続して取り組むこと、そして、私たちのビジョ

ンで最重要課題とする、JR産業の持続的な発展はグループ会社、協力会社等の存在が不可欠であるとの認識について、加盟全単組が共有し、すべてのJR関係労働者の労働条件の「底上げ」「底支え」と、JRグループ内における企業規模間の「格差是正」を実現していくといった20春闘の勝利に向けた基本的なスタンスを確認し、これに基づく基本方針の答申に向けた議論が行われた。

イースト春闘は7期連続のベア獲得と、総合労働条件の向上に向けて、JR連合の仲間とともに取り組みを進めていきます。

アピールし、健全な労使関係を築き上げ、新幹線で働く仲間と共に躍進していこう。」と集まった地本組合員に訴えた。

来賓として、菅野中央執行委員長より「全体的に高齢化しているが、若手組合員もいる。若手につなげられる活動を積極的にしてほしい。」他労働者が新幹線職場へ入り込もうとしており、イーストユニオン新幹線地本の取り組み強化をお願いする。そしてこれを戦略的な組織拡大につなげてほしい。」と激励した。

その後、議事に入り、基本的には今までのフィールドがある立場で活躍いただくこと、会社との交渉事、経営協議会などの意見交換で、新幹線業務に特化した事案に対する有効な提言、交渉を図っていくことなどを確認した。

最後に、「安全衛生活動や労使協議等のあらゆる機会



を通じて、職場からのポトムアップを基礎とした、より実態に即した実効性の高い対策の創出・実施に丁寧かつ粘り強く取り組む。「未組織労働者の組織化を通じた組織強化・拡大を実現することで『JR連合10万人組織』の達成やJR産業の持続的な発展、JR関係労働者の社会的地位の向上に繋げる。」とした大会宣言が採択され、満場一致で承認された。

＜新幹線地本三役＞

執行委員長

国井 道徳

(新潟新幹線運輸区)

執行副委員長

青田 節雄

(新幹線総合車両センター)

事務局長

斎藤 勝彦

(新幹線総合車両センター)

2020年度「連合・愛のキャンパ」
 連合「台風19号災害救援緊急キャンパ」

JR連合は、今年度も「連合・愛のキャンパ」に参加、取り組みを展開します。集約したキャンパ金の一部は、宮城県名取地区におけるオイスカ「海岸林再生プロジェクト」の支援へも充てられます。また、今年度は、連合「台風19号災害救援緊急キャンパ」についても支援対象とし、併せて取り組みとなります。ご理解とご協力をお願いします。

期間 2019年11月~12月(12月11日まで集約)
 目標 組合員一人50円以上を目標とする任意キャンパ

私たちはイーストユニオンは、企業内労働組合運動を展開すべく、各機関、専門分野の技能・知識を集約し、参加提言型運動を進めていきます。

交運共済 災害は避けられない。安心はふやせる。

家族の幸せを災害から守る
 火災共済/地震風水害共済/
 交通災害共済/入院共済